

## 春芽増収のための刈取りまでの管理について①

R5.9 アグリ技研（株）

「今後も気温は高く推移するとの予報です、高温により養分転流作用などの動きも鈍くなり、作用期間も短く貯蔵根糖分不足となりかねますので、暖秋を考慮した栽培管理に努め安定した春芽の収量を図る様をお願いします。」

- ① 茎葉維持して12月上旬までの光合成能力を高める。
  - ◎「秋雨で増加する褐斑や斑点病の予防防除徹底」
- ② 光合成の活性化を促す。（草勢の維持）
  - ◎葉面散布で草勢維持 9～10月/中旬  
「葉色低下には、コラーゲン・ラボ 500 倍にクドグリーン 500 倍の葉面散布」
  - ◎茎葉に十分な光線（太陽の光）を注ぎ込む。  
「天井ビニールの汚れは洗浄することで春芽の増収に効果高」
- ③養分転流の促進対策
  - ◎秋芽収穫の打切り時期の前進化  
「収穫は暖秋であっても10/月上旬前後で終了・遅延収穫は春芽に大きく影響」
  - ◎養分転流に促進剤 PK ゴー2000 倍を3回（7～10日置き）葉面散布（灌水可）  
「糖分蓄積は春芽に大きく影響しますので最低気温10℃から処理」
  - ◎養分転流時期になったら灌水量を増す。「週に2～3回は刈取まで実施する」